中学校（中学部）の部

耳にもバリアフリーを

堺市立五箇荘中学校　一年　川島　佳純

「聴覚過敏」を知っていますか？

五月のある日、母に言われて読んだスマホのニュースの内容に、私はとても驚きました。そこには、香川県高松市に住む、聴覚過敏に悩む中学三年生の女子生徒が、学校や県を動かして、運動会でのピストル音の使用を止めることができたということが書かれていました。自分と同じ年頃の女の子にそんなことができたのかという驚きと共に、自分がずっと悩んでいたものは、「聴覚過敏」という名前の症状だったのかということが分かり、それについて、もっとくわしく知りたいと思い、この本を読んでみることにしました。

この本には、聴覚過敏の仕組みと、その診断方法、治療方法などが、とても専門的に書かれています。初めて見る医学用語や見たことのない英語などがたくさん出てきて、最初は読むのにとまどいました。でも、その都度対訳一覧やインターネットで調べて、何とか読み進めることができました。

筆者によると、聴覚過敏というのは、大抵の人が十分我慢できる音に対して、苦痛や嫌悪を感じるという症状が出てしまうものであり、その原因には、耳の病理と関係するかもしれない生理学的なものだけでなく、心理学的な要素も含まれているということが考えられるそうです。また、「聴覚過敏」と一口に言っても、一人一人が苦痛に感じる音は異なり、それらの音にどれほど傷つくかも、皆違っています。雑音や話し声、手をたたく音に苦痛を感じる人もいれば、テレビや掃除機からの音が苦痛を引き起こすと訴えている人もいて、その苦痛に感じる音を聞いて、いらいらしてしまう人もいれば、緊張する人もいて、恐怖を覚えてしまう人もいれば、耳に痛みを感じる人もいるそうです。これらの音を聞いても、苦痛を感じたり、不快に思ったりする人はごく一部で、大部分の人が当たり前に感じる音だと思いますが、聴覚過敏の人にとっては問題となる種類の音になってしまうのです。

私がこの本の中で、一番心に残った言葉は、「より多くの人が聴覚過敏に関わるべきである。」という言葉です。私はこの筆者の意見に深く賛同しました。なぜなら、今回聴覚過敏について詳しく知りたくて本を探しましたが、図書館でも学校でも、この一冊しか見つけることができず、それほど日本ではあまり知られていない分野なのではないかと感じたからです。

私は、ピストルの音や風船の割れる音、打ち上げ花火などの破裂音が苦手です。その音を聞くと、怖くてその場所から少しでも遠くに逃げだしたくなります。音が苦手なだけで、花火大会や運動会は大好きなのに、音が苦手なことを知られると、花火にさそってもらえなくなったり、運動会でも全力を出すことができず、悲しく、くやしい思いをしたことが何度もありました。

私の母校の小学校では、今年から、運動会でのピストルの使用がなくなり、笛で代用されるようになりました。もう一年早ければ、私も耳をふさがずに、思いっきり競技に参加することができたのにと思うと、少し残念な気がしましたが、自分の周りで少しずつですが、理解され、そして改善されていくのを見ていると、これからもっと安心して暮らせる世の中になるのではないかと思えて、少しうれしくなりました。

私は、より多くの人が、この症状について知り、理解を深めることで、聴覚過敏の人達が安心して学校生活や社会生活を送ることのできる、優しい世の中になればいいと思います。そのために、決してわがままではなく、本当に音で困ることのある人がいるという事を、まずは自分の周りの人達に伝え、理解の輪を広めていきたいです。

「聴覚過敏―仕組みと診断そして治療法」
著　デービット・M・バグリー
　　ゲルハルト・アンダーソン
訳　中川　辰雄
　　海文堂出版